

ご挨拶

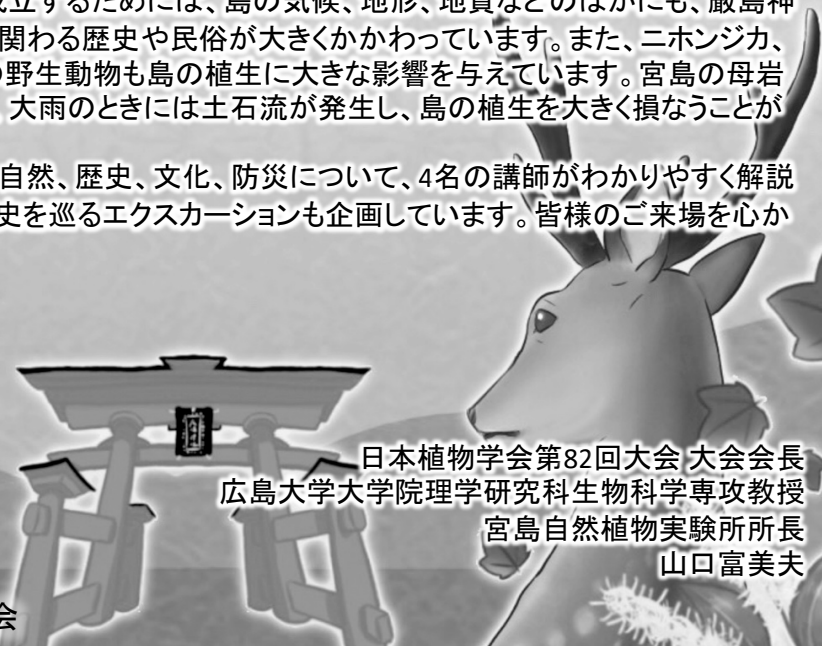
山が多い島国の日本でも、手つかずの自然が残されている地域はほんのわずかです。現在目にする緑の山も、スギやヒノキなどの植林地、里山として利用されてきた雑木林やそれらを放棄した林など、何らかの人の手が入ったものです。原生林と呼ばれるような森は、人が入り込めないような急峻な山奥や無人島などでわずかに残されています。しかし、人の生活圏内でも、原生林に近い状態の自然林を見ることができます。たとえば、社寺林あるいは鎮守の森(杜)と呼ばれる森が、神社を取り囲むように存在しています。

宮島の森も、社寺林のように扱われてきました。平安時代末期の1168年に平清盛が社殿を造営して以来、島のほぼ全域が神域として保護され、瀬戸内海の島に見られる本来の植生が奇跡的に残されてきました。1913年に宮島を訪れたドイツの植物学者のアドルフ・エングラー博士は、弥山に登山した際に、現地で見ると感動し、「私は、できるならば一生ここに住んで、ここで死にたい」と言ったと伝えられています。それほどに、宮島の植物は植物学的に見ても素晴らしいものです。

エングラー博士の発言がきっかけとなり、弥山の森は1929年に国の天然記念物「弥山原始林」に指定されました。また、1996年には厳島神社と弥山原始林を含む431.2 haの森林が世界文化遺産として登録され、その遺産を保護するために宮島全島が緩衝地帯に指定されています。さらに、2012年には海岸の一部がラムサール条約に登録されました。

現在のすばらしい宮島の植生が成立するためには、島の気候、地形、地質などのほかにも、厳島神社をはじめとする多くの神社仏閣が関わる歴史や民俗が大きくかかわっています。また、ニホンジカ、ニホンザル、タヌキやイノシシなどの野生動物も島の植生に大きな影響を与えています。宮島の母岩となっている花崗岩は風化しやすく、大雨のときには土石流が発生し、島の植生を大きく損なうことがあります。

今回のシンポジウムでは、宮島の自然、歴史、文化、防災について、4名の講師がわかりやすく解説します。講演後には、島の自然と歴史を巡るエクスカージョンも企画しています。皆様のご来場を心からお待ちしております。



日本植物学会第82回大会 大会会長
広島大学大学院理学研究科生物科学専攻教授
宮島自然植物実験所所長
山口富美夫

日本植物学会第82回大会公開講演会

主催：公益社団法人日本植物学会、後援：広島県教育委員会、協賛：中国醸造、宮島弥山をまもる会
協力：宮島学園PTA、宮島地区パークボランティアの会、一般社団法人宮島ネイチャー構想推進協議会、
広島大学大学院文学研究科附属 内海文化研究施設、広島大学大学院理学研究科附属宮島自然植物実験所、
ヒコビア会

会場のご案内

宮島学園(宮島小中学校)体育館で開催します(〒739-0588 廿日市市宮島町779-2)。JRまたは広島電鉄で宮島口までお越しください。宮島口からはJRフェリーまたは松大汽船で宮島にお渡りください。宮島棧橋から左方向へ徒歩5分です。予約・申込は不要ですので、当日会場に直接お越しください。宮島の植物の他、それにかかわる島の生活、文化、歴史などに関する講演会になります。午後は、講演会で議論した宮島の自然に直接触れる機会を設けます。講演会の内容に関連した場所をご案内いたします。

お問い合わせ先

日本植物学会第82回大会事務局
〒739-8526 東広島市鏡山1丁目3番1号 広島大学大学院理学研究科
生物科学専攻 植物分類・生態学研究室
TEL: 082-424-7452 / Fax: 082-424-7452
E-mail: bsj2018@hiroshima-u.ac.jp

